流れの可視化仙台講演会の開催にあたって

流れの可視化学会会長 林 泰 造

Message of the President at the Opening of SENDAI Meeting

Taizo HAYASHI

流れの可視化仙台講演会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

流れの可視化シンポジウムは昭和48年7月に当時の東京大学宇宙航空研究所の主催で呱呱の声をあげてから回を重ね、今年は第12回シンポジウムが開催されました。流れの可視化学会の活動が盛になるにつれ、東京ばかりでなく、別の地域での開催も望ましいとの声に答えて、第1回の地域講演会が一昨年長崎で開催されました。今年はその第2回目を本学会副会長村井 等教授を組織委員長としてここ仙台で開催していただける運びとなったのであります。

今年の講演会をお引き受けいただいた東北大学では高速力学研究所ならびに各学部研究機関において、流れの可視化技術の開発と利用、コンピュータ利用の可視化などで古くから流れの可視化に多くの成果が挙げられており、日本における流れの可視化の研究・技術発展のため大きな役割が果たされてきておりますことは、今さらここで申し上げるまでもないことと存じます。この地で講演会が開かれる意義は極めて大きいものがあると考えます。

東京以外の地域で講演会を開催する目的は、会員の研究発表の機会を多くすることはもちろんであります。日頃流れの可視化にともすれば疎遠でおられた方々あるいは関心を持たれながらも機会のなかった方々にも出席していただいて、ご理解とご関心を高めていただくことにあると考えます。

幸にして、今回予想を上回る多数の研究成果が寄せられ、2日間の発表となり、また関連の機器の展示も行なわれます。そのうえ、東北大学抗酸菌病研究所の田中元直教授に可視化の一つの新しい方向を探る特別講演をお願いできましたことは、錦上添花を添えるものであり、一層充実した講演会になることと期待しております。さらに、この第3日目には斬新な試みとして葛根田地熱発電所の見学を計画していただいておりますが、このことは学会の活動を活発にするためにもまことに喜ばしいことであると考えます。

どうか、時間の許す限り会員の皆様の活発なご討論を得まして、本講演会を一層盛り多いたすとともに、ロビーや懇親会の席上でのご歓談を通じてご交誼を一層深められるよう願いたすものであります。

最後に、この講演会の開催に多大のご尽力をいただいた講演会組織委員長東北大学高速力学研究所所長村井 等教授をはじめ組織委員会の皆様方、およびこの講演会のためにこのような立派な会場使用の便宜を与えられた大学関係者各位に心からお礼申し上げる次第であります。